

## 2013年度日本計量生物学会年会のご案内

和泉志津恵, 菅波秀規, 手良向聡, 服部聡 (企画担当理事)

2013年度の日本計量生物学会年会は、2013年5月23日(木)午前より24日(金)午前に、パルセいいざか(福島市飯坂温泉、<http://www.paruse.jp/>)にて開催されます。年会では、臨床試験の統計的課題に関する特別セッション、2012年度学会賞を受賞された上坂浩之氏による特別講演、ならびに研究発表、総会が予定されています。24日(金)午後からは、本学会共催により応用統計学会年会が開催されますが、日本計量生物学会と応用統計学会の合同の企画として、24日(金)午後に応用統計学会・日本計量生物学会合同特別企画「巨大データベースへの挑戦と社会・医療システムの変革」を実施いたします。また、同日の夕方に両学会合同での懇親会を開催いたします。翌25日(土)の午後には、両学会会長による市民講演会を開催いたします。いずれも例年になく企画で、他学会と交流するよい機会ですので、ふるってご参加ください。

本年は、試みとして一般講演セッションにポスター発表を新設します。また、一般講演セッションの分野に、実データへの応用を目的とした「事例研究」を新規に加え、以下にある分野毎の演題募集を行います。なお、事例研究の分野では、既存の方法の適用ではあるものの、現実問題への適用において有用な情報を提供する発表、既存の方法の適用結果を対比し、適用の際の方法の選択の指針を与える発表などを募集いたします。多くの方の発表申し込みをお待ちいたします。

昨年に引き続き、年会の参加費を例年よりも減額いたします。また、本学会年会参加者は、応用統計学会年会に割引価格で参加できます。さらに、一般講演セッションで発表される学生会員の方には、旅費の補助をいたします。学生会員の方の積極的な発表をお待ちいたします。

多くの方の年会への参加ならびに発表をお願い申し上げます。今年度の年会は震災復興の支援としても意味もごございますので、懇親会へのご参加と飯坂温泉周辺でのご宿泊をお願い申し上げます。近くの穴原温泉の旅館が学会にあわせた宿泊プランを用意してくれました。是非ともご利用ください。

参加につきましては、原則として事前に参加申し込みをしていただきますよう、ご協力のほどお願いいたします。参加申込には、申込用紙をご利用ください(年会案内に同封しています。もしくはHP <http://www.biometrics.gr.jp/> をご覧下さい)。

### 年会および懇親会の会場および参加要領

#### 会場

パルセいいざか <http://www.paruse.jp/>

〒960-0201 福島県福島市飯坂町字筑前27番地の1 電話：024-542-2121

#### 参加費

事前申込： [申し込み期間] 4月1日(月)～4月30日(火)

本学会員 年会1,000円, 懇親会5,000円

応用統計学会員 年会1,500円, 懇親会5,000円

非会員 年会4,500円, 懇親会5,000円

学生(会員, 非会員とも) 年会1,000円, 懇親会5,000円

# 年会・懇親会は一括申込をお願いします

#### 当日申込：

本学会員 年会1,000円, 懇親会5,000円

応用統計学会員 年会1,500円, 懇親会5,000円

非会員 年会5,000円, 懇親会5,000円

学生(会員, 非会員とも) 年会1,000円, 懇親会5,000円

## 2013年度日本計量生物学会年会

日時：5月23日（木）午前～24日（金）午前

### 特別セッション：5月23日（木）午後（予定）

セッション名：臨床試験における欠測データについて

オーガナイザー：菅波秀規（興和），富金原悟（小野薬品工業），土屋悟（大日本住友製薬）

#### 【趣旨】

臨床試験では様々な理由からデータが欠測する。欠測データが存在する場合のデータ解析ではいくつかの統計解析上の問題があるため、臨床試験での欠測データへの取り組みは重要な課題の一つである。

2010年に、米国National Research Councilが、報告書「The Prevention and Treatment of Missing Data in Clinical Trials」を発表し、2011年にEuropean Medicines Agencyは「Guideline on Missing Data in Confirmatory Clinical Trials」を示した。そして、2012年にNew England Journal of Medicineで、Littleらによって、「The Prevention and Treatment of Missing Data in Clinical Trials.」が発表された。これらは、いずれも欠測データに対する包括的な考え方を示したものである。

本セッションでは、①最近の欠測データに関する考え方を概説すること、②米国の状況を示すこと、③実例を紹介すること、④討論を行うことによって、これから日本で実施される臨床試験データに対してどのように考えていくべきかを共有したい。特に、これまでよく利用されてきたLOCF（Last Observation Carried Forward）法について、今後、どのように扱っていくべきかについて議論することを試みたい。

#### 【演者・演題（仮題）】

田中司朗（京都大学）「欠測データの予防（仮）」

伊藤陽一（北海道大学）「Missingに対する解析手法の概説（仮）」

岡本暁子（ヤンセンファーマ）「海外での欠測データの扱い（仮）」

河合統介，松岡伸篤，井洋一（ファイザー製薬）「欠測値を含む臨床データ解析の仮定と実際（仮）」

山口拓洋（東北大学）「欠測データ解析の実例 -アカデミアの視点から（仮）」

安藤友紀（PMDA），各演者「総合討論」

### 特別講演（2012年度学会賞受賞者講演）：5月24日（金）午前（予定）

演者：上坂浩之（大阪大学）

演題：「臨床研究に統計家はどうか関わるか：医薬品開発の事例から（仮題）」

#### 一般講演の申し込み

以下の分野毎に演題を募集します。

- A. 臨床試験・臨床研究，B. 臨床診断学，C. 疫学，D. ゲノム・バイオインフォマティクス，
- E. 資源・環境・農業，F. 事例研究，G. その他

応募の際には、ご希望される分野名を必ずご指定下さい。分野毎の演題募集には、学会の独自性・特色をより打ち出し、専門性を深めるというねらいがあります。分野毎に、より踏み込んだ活発な議論を期待しております。会員の皆様の積極的なご発表をお願い致します。

本年度は、試みとしてポスターセッションでの発表を行います。口頭での発表を希望するかポスターでの発表を希望するかを、申し込み時にお申し出ください。希望を最大限尊重いたしますが、プログラム編成の都合上、発表形式の変更をお願いする場合がございますことをご了承ください。

一般講演をされる学生会員の方に、30,000円を上限として旅費の援助をいたします。以下の（5）をご参照ください。

#### （1）申し込み方法：

発表者氏名，所属（共同の場合は全員の氏名，所属），講演題目，発表の形式（口頭，ポスター），連絡先，学生会員は旅費の補助を希望するか否かを明記の上，電子メール，ファックスあるいは葉書で下記にお送り下さい。

また、Biometric Bulletin への掲載のためにお手数ですが、講演題目、発表者氏名、所属についての英語版も合わせてお送り下さい。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階 (財)統計情報研究開発センター内  
日本計量生物学会事務局

E-mail : biometrics@sinfonica.or.jp ; Fax : 03-3234-7472

HP : <http://www.biometrics.gr.jp/>

(2) 発表申し込み受付開始 2013年3月1日(金)

(3) 発表申し込み締め切り 2013年3月30日(土)

(4) 予稿原稿締切(必着) 2013年4月15日(月)

ご講演を申し込まれた方には予稿原稿執筆要領をお送りします。

(5) 学生会員に対する旅費の補助について

若い皆さんに積極的に研究発表の機会をもっていただくべく、本年会において演題発表を行う「学生会員」のみなさんに旅費の補助を行うことにしました。たくさんの学生会員のみなさんの発表をお待ちしています。

○対象者：本人が講演者となって一般講演セッションで演題発表を行う学生会員(口演、ポスターを問いません)

○補助額：一人あたり30,000円を上限として旅費を補助

○申込方法：補助を希望する対象者は年会の講演申込の際にあわせて「旅費等補助希望」と連絡してください。参加申込み・参加費支払いを各自で行っていただき、学会終了後、補助金額を本人に学会からお支払します。ただし申込多数の場合にはご希望にそえない場合があります。補助が決定した方には別途事務局より手続き方法について連絡します。

なお今回の補助は講演申込にあわせて日本計量生物学会に入会申込した学生さんにも適用されます。本年度は特別措置として学生会員の年会費は無料となりますので、周囲で日本計量生物学会に入会していない学生の方にもこの機会に是非入会と発表を勧めてください。

## その他

- ・年会期間中に日本計量生物学会総会及び学会賞授与式、並びに評議員会を開催します。
- ・5月24日(金)午後から25日(土)午前には応用統計学会年大会が本年会と同会場にて開催されます。日本計量生物学会年会参加者は会員1,500円、非会員4,000円にて参加することができます。

## 宿泊について

会場近くの飯坂温泉、穴原温泉に旅館が多数ございます。福島交通飯坂線あるいはタクシーで25分程度離れたJR福島駅周辺には、ビジネスホテルが多数ございます。

タクシーにて、会場まで5分程度の穴原温泉の旅館(吉川屋 <http://www.yosikawaya.com/> , 山房月之瀬 <http://www11.ocn.ne.jp/~tukihana/tsuki/> )が学会にあわせた宿泊プランを用意してくれました。1名、2名からの宿泊や夕食なしのプランも可能です。ご希望の方は、学会ホームページ(<http://www.biometrics.gr.jp/>)より、3/31(日)までにお申し込みください。

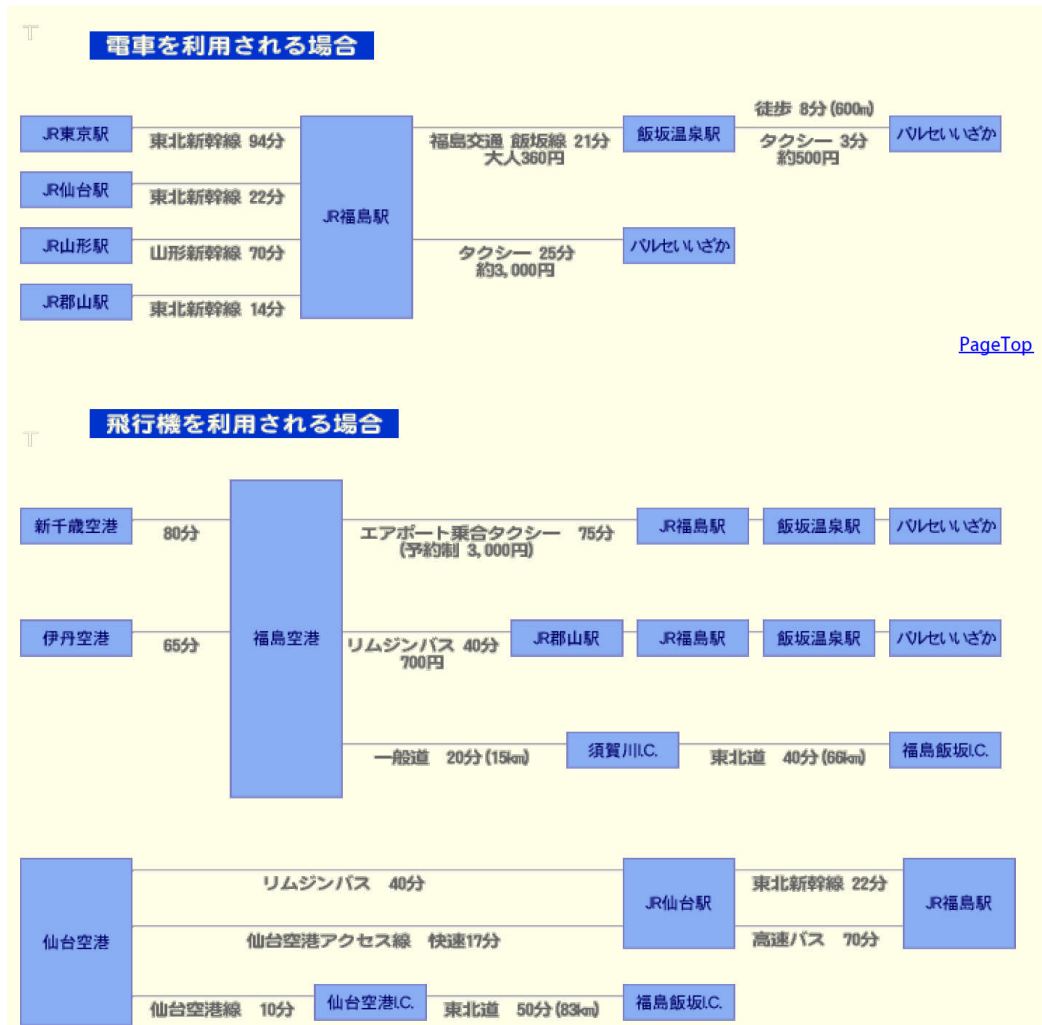
## 昼食について

会場付近には飲食店がほとんどありませんので、昼食を各自ご用意ください。会場に昼食をとれる部屋をご用意いたします。

5月23日から25日の昼食用のお弁当(1,000円)の注文をお受けいたします。ご希望の方は、年会参加の際に併せてお申込み下さい。24日(金)、25日(土)の分につきましては、前日午前までに会場でお申込みいただくことも可能です。料金は当日会場でお支払いください。

## 会場へのアクセス

JR 福島駅より、福島交通飯坂線で飯坂温泉駅下車、徒歩 8 分。詳細は以下の URL から「アクセス」をご参照ください：<http://www.paruse.jp/>



福島交通（福島駅～飯坂温泉間）時刻表：

[http://www.fukushima-koutu.co.jp/train/04\\_16.html](http://www.fukushima-koutu.co.jp/train/04_16.html)

<http://www.fukushima-koutu.co.jp/train/ryoukin/01.pdf>

応用統計学会・日本計量生物学会合同企画セッション  
巨大データベースへの挑戦と社会・医療システムの変革

1. 日 時：2013年5月24日（金） 午後
2. 会 場：パルセいいざか（福島市飯坂温泉観光会館）， <http://www.paruse.jp/>  
〒960-0201 福島県福島市飯坂町字筑前 27-1 TEL 024-542-2121
3. 参加費：本セッションは応用統計学会年会にて実施されます。日本計量生物学会年会参加者は、会員 1,500 円、非会員 4,000 円にてご参加いただけます（受付時に日本計量生物学会年会参加証をご提示ください）。
4. 講演者、タイトル：

植原 啓介（慶應義塾大学情報環境学部）：

「社会を理解するためのデータ、社会を計画するためのデータ」

（独）統計センター（予定）：

「小地域人口統計データの活用とその未来」

小出 大介（東京大学大学院医学系研究科）：

「ナショナルデータベースと SS-MIX の現状」（仮）

康永 秀生（東京大学大学院医学系研究科）：

「急性期入院診療報酬請求データ（DPC データ）の研究利用」（仮）

## 応用統計学会・日本計量生物学会主催

### 市民講演会のご案内

福島市民の多くの方々に、応用統計学と計量生物学とはどのようなものか、その社会的な意義と役割や面白さに触れていただくため、日本計量生物学会と共催で5月25日午後には市民講演会を開催します。両学会会長の講演でもあり、会員の皆様にも、ぜひ奮ってご参加をお願いします。

1. 日 時：2013年5月25日（土） 13:00-15:00
2. 会 場：パルセいいざか（福島市飯坂温泉観光会館） <http://www.paruse.jp/>  
〒960-0201 福島県福島市飯坂町字筑前 27-1 TEL 024-542-2121
3. 参加費：無料
4. 申し込み方法：年会案内の際にお申し込みいただくことができます。当日、会場でも参加を受け付けますが、会場が満席となった場合、入場をお断りとするところがあるかもしれませんのでご了承ください。
5. プログラム：

**13:00～14:00 応用統計学会会長講演 川崎 茂（日本大学経済学部教授、元総務省統計局長）**

『災害と統計 — 東日本大震災からの教訓』

東日本大震災と原子力発電所事故により、広範囲の地域に甚大な被害が発生し、今もなお約30万人の人が自宅を離れて生活しています。このような大災害からの復興を円滑に進めるには、正確な情報に基づいて対策を進めることが必要です。この講演では、大災害に当たって統計をどのように整備し活用すべきか、東日本大震災から得られる教訓について考えます。

**14:00～15:00 日本計量生物学会会長講演 大橋 靖雄（東京大学大学院医学系研究科教授）**

『がん予防と疫学研究』

疫学とは疾病発生や健康状態を集団として捉え、何が疾病発生のリスクとなるかを計量的に捉え、分析結果を予防につなげようとする科学です。ご存知の通り福島県では放射線の健康影響が問題となっていますが、最大の懸念はがん発生の増加です。どの程度の影響があるか、食事などの生活習慣の影響と比べるとどうかは疫学の観点からの評価が必要です。巷に氾濫する（しばしばいい加減な）健康情報の真贋を見極めるにも疫学の視点が必要です。疫学の観点から、がん予防についてわかっていることを紹介したいと思います。